

最優秀を獲得した赤池  
逢心君＝4日午後、松山  
市大手町1丁目



# 県小学生プログラミング大会

児童が自分で制作したプログラミング作品の出来栄を競う「県小学生プログラミング大会2022（愛媛新聞社主催、愛媛大工学部共催）」が4日、松山市大手町1丁目の愛媛新聞社であり、松山市久枝小5年赤池逢心君（11）の「歩いて競う健康アプリ風ゲーム」が最優秀に選ばれた。

## 赤池君（松山久枝小）最優秀

### 「楽しく健康」テーマ

募集テーマは「みんなの暮らし」。書類審査を通過した9組10人が3

分の持ち時間で作品の魅力をプレゼンテーションし、4人の審査員が発想力や作品の質などを総合的に判断した。赤池君の作品は、出合ったモンスターが課す「階段100段上れ」といったミッションをクリアしながら、プレイヤーのキャラクターを進化させていくゲーム。インターネットで仕事や遊びが完結する時代になったからこそ、運動するきっかけをつくりたかったと言

い、「楽しく健康になれるゲームにしたかった。このほか、ウクライナ情勢から着想した、テントウムシが仲間を助けながら平和を目指すゲームや、赤ちゃんのお世話を疑似体験できるゲームなど個性豊かな作品が勢ぞろい。審査員を務めた愛媛大の高橋寛工学部

長は「社会の状況をよ

読もう！



県小学生プログラミング大会で自分の作品の魅力をアピールする児童  
＝4日午後、松山市大手町1丁目

（増田有梨）